

学校法人 尚綱学園 広報誌
SHOKEI EDUCATIONAL INSTITUTION
PUBLIC INFORMATION

礎

ISHIZUE

2007. Spring vol.08

礎 コラム あた・まの話

「あたま」という言葉を辞書で調べると

(一)人・動物の首から上、先の部分、かしら、こうべ (二)頭脳またはその働き

(三)物の上端 (四)上に立つ人 —— などの説明が載っている。

学校で成績のよい級友を「あの人にはあたまがよい」と生徒たちは表現することが多い。いったいあたまをよくするとはどんなことが考えられるのだろうか。

一方、あたまがよくて非常識な人間は今からの世の中では邪魔ものになる。

と力説しながら私はあたまとは「あ」は明るさ「た」はたくましさ「ま」は真面目さの頭文字のことだと確信していると言っている人がいる。

即ち「明るさ」は健康な体とところ、表情、言葉など他者と共に生きていくための貴重な財産。

「たくましさ」は考えていることを実行に移せる

積極的な行動力や意志が強く何ごとにもくじけない精神力。

「真面目さ」は善悪、正不正を弁え、決して人に迷惑をかけない生き方や

約束通りこつこつと責任を果たす誠実さ。

あたまという語句を用いた言葉の表現や比喩を並べてみると頭脳やその働きのことだけでなく

性格、人柄や感情など様々な意味合いを含んだものとして用いられている。

あたまが古い、あたまが堅い、あたまでっかち、あたまを冷やす、

あたまをかかえる、あたまにくる、あたまを丸める、あたまをもたげる、

あたまがきれる、あたまが低い、あたまが上がない ——

特に教師はいつの時代も保護者や生徒たちから

「あたまの下がる」先生と言われるようになってきたものである。





創立百十九年の歴史と伝統を有する本校は、尚綱五ヶ条を教育活動の中心に据えながら情操豊かな人間教育を主眼に置き、女性としての品性、知性を高めることを目標に社会や組織に好感をもって迎えられ、人材を育てることを教育理念としてきました。

そして、尚綱高校の創立以来のモットーである「謙虚で奥ゆかしい女性の育成」に力を注ぎ、書道や茶道、華道、和装などの礼法を重んじる教育を行っていません。同時に「当たり前が輝く学校」を目指し、『時を守り、場を浄め、礼を正す』を合言葉に、挨拶や掃除、身だしなみ、言葉遣いなどの基本的生活習慣を大切にしています。

また、陸上、剣道、バスケット、卓球、ソフトテニスなど活躍している部活動においても、試合に勝つことよりも礼儀やマナー、責任感、協調性などスポーツマンとしての基本教育が優先してなされています。

一方学習においても、上級学校への進学実績向上のために特進コースを設置し、文系と理系コースに分け、管理栄養士をめざす尚綱大学生活科学部や高等看護学校を中心とした医療系大学への進路実現に向けての受験体制も整えています。

同様に、普通コースにおいても、進路先の多様化による各種専門学校志望者が増加すると共に、進路に直結しない授業が生徒の学習意欲を弱め、学力の低下を招いている現状に鑑み、今年度から「幼児教育コース」「食物栄養コース」「文系コース」「情報ビジネスコース」「医療系コース」の五つのコースを設け、可能な限り進路と結びついた授業を展開し、クラス運営、キャリア教育の充実と進学実績の向上を図ることをめざしています。

このように、百十九年の女子教育の歴史と伝統の上に新たな

尚綱高校の教育 百十九年の女子教育の伝統に、新たな風を



礎 いしづえ | vol.08 Contents

◎巻頭特集	巻頭
尚綱高校の教育 百十九年の女子教育の伝統に、 新たな風を	
【尚綱学園史】内藤儀十郎先生、生誕160年	6
学園ニュース	7
サポートセンターだより	8
エッセイ「教育における言葉の重み」	9
コラム「あ・た・まの話」	巻末



川上校長 高校生のころは厳しいと思われていたかと思いますが、尚綱高校の校風で印象に残っているもの、社会に出てから役立つていたものはありますか？

富 女子校です。女性としてのたしなみはしっかりと教えられました。学生時代には理解できない部分ももちろんありましたが、自分が母親に



「心を出てからも大切にしたい」「心を磨く」礼儀作法

富 私の高校時代は、先生から怒られても、必死に我慢していました。それが生徒と教師の関係性を濃くしていたと思いますが、今はそのことが希薄になってきているような気がします。また、尚綱高校は、生徒一人ひとりが何かで目立つことができる学校でした。体育祭や文化祭、クラスマッチ、コンサートなど、目標に向かって必死にがんばっていたと思います。しかし、教師として接してみると、今の生徒たちからそういった勢いを感じることは少ないように思います。

富 大学の進学しようと。また、英語は苦手な教科でしたが、話せるくらいにはなろうと思いい、英文学科に進学しました。在学中は、1年間休学してネブラスカ州セントメアリー大学へ留学。授業やさまざまな遊びを通して英語を学ぶ中で、次第におもしろいと感じるようになり、グングンとスポンジのように吸収できました。どちらかといえば劣等生でしたが、1年間集中して勉強すれば、不得意も得意に変えることができるかと実感。私がそうやって学ん

富 入学式の式典で、先輩方が椅子から立ち上がったお辞儀をされる姿を見た時の印象は、今でも鮮烈に覚えています。しんと静まりかえった厳肅な雰囲気の中で、ザツとスカートの擦れた音だけが響く。そして、一分の乱れもなくお辞儀をする。「この高校はいつたい何？」って驚きながらも、女性の美しさを感じ

富 数学のY先生の授業は新鮮でした。授業中、数学には関係のないことでも、先生が体験されたことをお話になるんです。例えば、菊池恵風園を訪問した際の出来事やご自分が感じられたことなどです。先生の体験や考えを聞くことができ、とても身近に感じました。仕事に行き詰まった時には、高校時代のことを振り返りますが、Y先生のことはいくつも思い出します。

川上校長 先生方に、授業の中で人生の価値、生き方などを語っていただきたいとお願しているんです。社会人になって蘇るのは、そういう内容の話だと思いますからね。富さんも5分でもいいから、授業の中でご自身の言葉で話しかけることを取り入れてほしいと思いますね。

富 久美(とみくみ)さん
尚綱高校から尚綱大学文学部英文学科へ進学。留学のため1年間休学し、平成9年3月に卒業。卒業後は臨時採用教員として勤務しながら、教員採用試験に合格する。初任地は熊本農業高等学校、現在は高森高等学校教諭。



富 久美(とみくみ)さん
尚綱高校から尚綱大学文学部英文学科へ進学。留学のため1年間休学し、平成9年3月に卒業。卒業後は臨時採用教員として勤務しながら、教員採用試験に合格する。初任地は熊本農業高等学校、現在は高森高等学校教諭。



対談 尚綱OG インタビュー

教育現場に立ってこそわかる 尚綱の心の教育の深さ

川上校長 富さんは、尚綱高校から尚綱大学文学部英文学科に進学され、卒業後は高等学校の英語の先生をされています。教師を目指したきっかけを教えてください。

富 教師の仕事を意識したのは幼稚園のころです。受け持ちの先生がとても良くしてくれ、教師は人と人の触れ合いが大事な仕事だと思ふようになりました。ですから、最初は幼稚園の先生にと考えていました。しかし、せっかく尚綱高校に入学したのだから、大学は尚綱

できたことを高校生に教えられればと思います。就職を目指すことにしました。

川上校長 在校中に、現在の富さんに影響を与えようような素敵な先生との出会いはありましたか？

富 数学のY先生の授業は新鮮でした。授業中、数学には関係のないことでも、先生が体験されたことをお話になるんです。例えば、菊池恵風園を訪問した際の出来事やご自分が感じられたことなどです。先生の体験や考えを聞くことができ、とても身近に感じました。仕事に行き詰まった時には、高校時代のことを振り返りますが、Y先生のことはいくつも思い出します。



尚綱高校の先生たちの 教育に対する思い

「教育に携わる者として」

理科 重信弘子

正月三日、朝の街中で、小走りの白衣姿の若い女性が私の前で立ち止まり、年始の挨拶と共に、「いつも妹がお世話になってます。仕事で急いでいますので失礼します、すみません。」と丁寧に挨拶をして駆け去った。三年前の卒業生だった。その妹を現在担任している。若者らしい爽やかな礼儀正しさに、清々しい嬉しさでいっぱいになった。在学中からは想像もつかない言動に正直驚いたが、彼女の成長ぶりがとても素敵だった。

人は、育てられてこそ人となる。家庭の愛情と熱、地域社会の人々との関わりや様々な経験、そして学校の生活。尚綱は110余年の間、中国の古典、詩経の中の教えを軸に多くの生徒を育てて来た。いつの時代も人として生きるのに規範とすべきものは変わらない。明るく、謙虚な姿勢でよく見守り、考え

丁を扱う事ができて皮むき機を使う人」と「包丁を扱うことが出来ずに皮むき機を使う人」の2種があることがわかった。これは意味が全く違う。基本的なことを習得せずに安易に楽な方を選択している人が多くいることに問題がある。家庭科は生活に密着した教科だけにこれからの生きる術を学んで欲しい。と同時に切る、洗う、ゆがく、絞る、結ぶ、縫う、畳むなどの基本的なことがどれ程大切であるのか、それを教えることが今からの家庭科の教員としての私の使命であると思う。

「進路」

進路部長 数学科 菅義隆

高校生活は、将来の夢を描くことのできる大切な時期です。また、自立を目指す時期でもあるのです。この時期に、友人切磋琢磨し夢の実現に向かって自分の限界に挑戦することは、これからの人生において貴重な体験となるでしょう。また、自分を育てる上でも良い機会であり、きっと大きな自信となることでしょう。

これからの人生については、まだおぼろげにしか見えてこないかも知れませんが、大切なのは将来に対する夢や理想を持ち続け、目標に向かって生き

て努力する女性に育ってほしいと願っている。環境が与える影響は小さくない。まずは「魁より始めよ」で、自らを律して励みたいと思う。

「尚綱の輪」 社会科 山道尚幸

本校では、体育祭で学年ごとにマステゲームを演じます。特に、二年生のマステゲーム「扇の舞」は、水前寺陸上競技場のフィールド



下一杯を使って、優雅に演じられます。三年生にとっては、思い出深いものとなっています。ある年のことです。事前の練習でももちろん、予行日になっても全く演技が完成していませんでした。「今年の二年は、これでは本番が心配だ。注意と気合いを入れてください。」という声があり、それで、私を含めた三年生の担任は、予行終了後、三年生だけを集めました。私は「今日進行をしているY先生へ話をしてもらえないかとお願いしたら、彼はその時にこう言いました。「注意とかおこらんでよかでしょう。明日は、こぎゃんこつばしようじやなかや。納得のいくこつしよう。」こんな話

でよかですか。」Y先生は、自分の気持ち、二年生の担任の気持ちをみんなに代わって話していました。横の方が生徒よりも感激しました。当日は緊張しましたが、行進が終わると、担任みんなで競技場の観覧席に駆け上り、演技を見ました。グ

「家庭科を通じて教えたこと」

家庭科 大城多恵子

最近では食生活が多様化し、外食産業も増え、家庭料理という存在が消えつつある。このような中、年間に調理実習を5回行うが、ガスを一度もつけたことがない人、ほうれん草がゆでられない人、様々な人、特に「包丁を使ったこと」がない女生徒がいることには驚く。その様子を見て、皮をむくものにも「包



るという姿勢なのです。

進路は最終的には、自分で決断をし、自分の力で切り開いていくべき性質のものですが、しかし、それは保護者の理解と協力がなくてはなかなか叶えられるものではないと思います。そして本当にやりたいと思っていることは何か、また、適性や能力を開花させるにはどの道を選ぶのが良いか、親子でじっくり話し合うことが大切です。本人の希望を優先するのは勿論ですが、その分野に適性があるのかないのか、冷静に我が子を見つめてください。決して押しつけることなくヒントを与えるような気持ちでアドバイスをしてほしいものです。

生徒の皆さんが積極的な高校生活を送り、夢が実現することを願ってやみません。

コース制の新設

コース名	主な進路
幼児教育コース	短大幼児教育／幼児教育系／芸術系(美術・音楽)
食物栄養コース	大学栄養科学／短大食物栄養／その他の食物
文系コース	私立大学文系
情報ビジネスコース	大学文化言語学部書道／短大総合生活／各種専門学校／就職
医療系コース	各種医療系

幼児教育コースでは、必須科目であり、生徒にとって困難なピアノ・歌唱造形表現などの技術・技能の習得のために学校設定科目として「音楽実技」・「美術実技」を設置しています。

食物栄養コースでは、進学後に不可欠な理数教科の基礎学力の徹底を図るために、化学Ⅱ、生物Ⅱの他に、食物Ⅱを設定し、調理実習を中心とした食に関する知識、技術の修得をめざしています。

文系コースでは、国語、英語の基礎学力を養うため、現代文、古典、リーディング、ライティングの授業時間を増やし、語学の表現力、

応用力を身につけさせることにしています。

情報ビジネスコースでは、コンピュータ処理能力を高めるための情報実技、硬筆、毛筆の資格検定取得を目標とした書道実技、国際感覚を学ぶための情報英語の三つの学校設定科目を実施します。

医療系コースでは、女生徒が不得手とする化学Ⅱ、生物Ⅱ、数学の教科を増やし、理科系科目の強化を図ると同時に、職業特性として求められる分析観察力、課題発見能力養成のための研修等を長期休業中に実施することにしています。

尚綱学園ニュース

SHOKEI GAKUEN NEWS

尚綱高校 ギター・マンドリン部



「第31回全国総合文化祭」熊本県代表選考会で金賞受賞／全国総合文化祭(島根大会、7月29日～8月2日開催)出場決定

尚綱中学 陸上部

角崎友香さん(左)、西山実花さん(右)



将来が楽しみな、尚綱中学校の陸上部の二人です。1月28日に行われた「第24回熊日都市対抗女子駅伝」で1区を力走した二人。角崎さんは、トップで次のランナーに襪をつなぎ、みごと熊本市チームに優勝をもたらしました。その堂々たる走りっぷりは、翌日の熊日の新聞に大きく載りました。今年の目標は、角崎友香さんが「試合の度にどんどん自己ベストを出していく」と、西山実花さんが「中体連で入賞できるように頑張る」と語っていました。

尚綱高校 書道部

西山 智美さん(尚綱高校3年)



第42回熊本県高等学校書道展で最優秀賞受賞／第31回全国高等学校総合文化祭(島根大会、7月29日～8月2日開催)出場決定

内藤儀十郎先生、 生誕一六〇年



内藤儀十郎
1847～1919年細川藩赤坂藩士の一子として現熊本市に生まれる。内藤平左衛門の養子となる。1888(明治21)年開校の済々黌附属女学校(のちに、尚綱女学校と改名)の初代校長。1913(大正2)年盛衰褒章受賞。

内藤は、明治十九(一八八六)年十一月三日、済々黌の西隣に済々黌外塾の校舎を建てました。はじめは二十人足らずで始まりました。しかし、入塾希望者がどんどん増えて、教室や寄宿舎が増築されました。結局、二二〇人ほどの塾生になりました。まさに内藤は、現在の教育が抱えている問題を、既に実践していたことになりました。

藤といふあだ名は有名なもので、集会の席などで彼が立ち上がって皮肉を言うとか、いかにも苦がく聞こえたのだそうです。済々黌が創立されたころは、設備も不十分であつたし、先生の数も足りませんでした。そんな中で、内藤は物理の授業も担当していました。その授業はと言えば、例えば膨るるを説明するのに、「どうたいな。見るがええ。ああた達が、正月餅ば焼く時に、プウと膨るる。どうがなあ。あれが即ち膨張性たい。」といった調子でした。また、図画も担当していました。写生の時に土瓶をふら下げてきて、そ

れを教卓に置き、「これは画くがええ」と言い残したまま何も指示しません。そこで、生徒は思い思いに写生をしました。現在の学校から考えたならば、隔世の感があります。しかし、内藤は教育の本質が有為な人材を育成することであるという信念を持っていました。ですから、誠心誠意を資本として教育に当たつたのだと思います。また、尚綱校創立のころは、経営的に随分と厳しい状況にありました。そこで、内藤は広い敷地を利用して蚕を飼ひ、その収入を学校の経費に充てることにしました。教師・生徒

が一丸となつて働きました。内藤は、裸足のままで桑切りをやり、時には雨の中ずぶ濡れになつたこともありました。ある年の養蚕の時期に、雨がたいそう降つたことがありました。彼は、いつものように桑畑に出ていました。この時、広島師範学校(現広島大学教育学部)の教師・生徒が本校を視察にきました。内藤は、両肩に桑木をかけて帰ってきました。これを見た師範学校の生徒が校長に來校の旨を伝えるよう依頼しました。その時、内藤はこりとして、「校長は私でございます」と挨拶しました。それで生徒達は、啞然としてしまいました。このように内藤は、時として校長兼用務員ともなつて、学校の維持に努めました。

インフォメーション

尚綱大学

- 新入生歓迎スポーツ大会…5月25日(金)
- モンタナ大学留学出発…7月21日(土)

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

- オープンキャンパス…7月21日(土)／7月22日(日)
- 公開講座…9月10日(月)／9月14日(金)

尚綱高校

- 文化祭…6月17日(日)／6月18日(月)
- はなしのぶコンサート…6月24日(日)

「着物の話」

「洋服は袋、着物は風呂敷、袋の中に頭、手探りで手や首を出したりする。着物は袖を通す動作、帯をしめる動作が自然にやれる。後から羽織を着せかける動作：丈に綺麗です。これは、美術家の後田桃紅さんのことばです。早速の映像のように、気ぜわしい現代！今こそ、衿を止す、折り目止しくなど衣装から生まれた礼を表現する言葉や心高い美意識を学び、民族衣装、装いの道に込められた愛・美・礼といった和の心に目覚める時ではないでしょうか。真の繁栄、真の人材育成の為に…」

和装礼法同好会顧問
江本貴美子



今春四月に入り、お蔭様で尚綱サポートセンターは2年目を迎えることができました。この一年間、尚綱学園の関係者の方々をはじめ、多くの企業並びに経済界の方々のご協力のもとで運営することが出来ました。改めて厚く御礼申し上げます。サポートセンターの現在の取扱業務は、食堂、売店、書籍、事務機器用品、印刷、施設建設、清掃管理、損害保険、アパート斡旋、旅行チケット等ですが、自動車教習所、自動車販売店との業務提携も近々に予定しています。すべて県内でも優れて有力な企業様のご協力を頂いております。なお、念願のサポートセンター事務室も今年一月より九品寺四号館の学生ホールに併設することができました。スタッフもまだまだ不慣れなため、ご迷惑をお掛けすることが多いと思えますが、何卒格段のご支援を頂きますようお願い申し上げます。

サポートセンター社長
佐藤和弘

エッセイ 教育における 言葉の重み

教育というのはいろいろな事柄のエッセンスを言葉を使って伝達するという営みが大半を占める。だが言葉はその場で次々と消えていく運命にあり目に見えない形で残ることはない。

しかし教師の言葉によって生徒の奥深くにある何か揺さぶられ精神が反応することがきつとある。それだけに教育において言葉の力というものを色あせさせてはならない。粗末に扱ってはならない。

考えるということは、言葉を操る作業、言葉を練ることである。言葉は思想と感情を運ぶ道具だから、言葉の豊かさは観察力や思考力と表裏一体の関係にある。

教師は生徒の前に立つだけで「文化」そのものでなければならぬ。ということにこだわり続けたい。言行一致に生きる強さと心を込めて相手を思う使命感の中から人を震い立たせるような言葉や心に残る挿話を伝えられたらいいと考えている。自分の中にいい言葉をいっぱい蓄えてよきメッセージを届けたらと思う。

人としての生き方、学問への姿勢、将

快適なキャンパスライフのサポート



濱崎美紀さん

サポートセンターの仕事は学園内の備品・印刷物の発注から、損害保険、旅行、不動産の斡旋など多岐にわたります。昨年3月に発足し、いよいよ今年1月に事務所が開設しました。今後も学生・職員の皆様向けに色々な企画を行っていきたく考えています。学園生活の強い手助けになるよう、頑張りますのでよろしくお願い致します。



江崎りえさん

4月から、サポートセンターでの勤務になりました。主に、備品業者さんとのやり取りや、学生の皆さんからの旅行への問い合わせ、先生方の出張の手配などを担当しています。今後、同じ学園の卒業生ならではの心配りで、サポートセンターを気軽に利用してもらえよう、雰囲気づくりを心がけていきますので、いつでもいらしてください。



山本一美さん

主に先生方から備品や本の注文依頼を受けて発注の業務などを行っております。発注したばかりのサポートセンターですが、先生方や学生の皆さんの応援ができるよう、1日も早くスムーズなサポート体制を整えていきたいと思っております。学生の皆さんとは年齢が近いので、気軽に「山本さん」と声をかけてもらいたいですね。

来への展望など生徒たちの内面に位置付けることを願ってたくさんの心の引き出しを豊かできるおののがあるものとして持っておきたい。

信という字は、人の言、と書く。信じてもらうことこそがおよそ言葉と人間の生命の命脈である。人間の言葉は本来おどろきであったり曖昧であったりしてはならないのだ。特に教育の場においては人を力づけ、慰め、励まし、希望を与えるものでなければならぬ。難しいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことは愉快に、愉快なことは真面目に、いつも生徒たちに真実の言葉を発する技量が求められる。言葉というものの偉大さ、奥深さ、美しさを伝えたいと念じている。

いつの日か心に宿りついたそれらの言葉は静かに発酵してその人の人生を慰め、勇気づけるに違いないと信じて！。

教育はサイエンスなのか、アートなのかと問われたらアートだと言えるように、彩りや香りまでもが漂うまでに昇華させてゆけたら理想である。